

## 4 実施事業

### (1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充 ア 有償在宅福祉サービス事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	利用会員数（世帯）	300 世帯	240 世帯
	協力会員数	310 人	266 人
	協力会員説明会（定期・随時）	35 回以上	26 回
評価等	<p>○利用会員数（世帯） 食事サービス，ホームヘルプサービスともに新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け減少したため，目標値には届きませんでした。</p> <p>○協力会員数 食事サービス，ホームヘルプサービスともに新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた新規登録者の減少や，年度更新に伴う退会，未活動会員の退会も重なり目標には届きませんでした。</p> <p>○協力会員説明会（定期・随時） 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け，定期開催の説明会を中止したため目標には届きませんでした。</p>		

#### (ア) 利用会員の状況

令和2年度末の登録世帯数は240世帯となり，目標としていた300世帯には届きませんでした。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い，新規利用会員の登録を一時中止したことも大きく影響しました。ホームヘルプサービス，食事サービスはソーシャルワーカーが個々の利用会員のアセスメントを踏まえ，必要性に応じて密を回避しながら提供しました。また，ソーシャルワーカーが利用会員にこまめに連絡し，関係機関と連携しながら日常生活を支援しました。新型コロナウイルス感染症拡大により，人々の活動や行動が縮小し，「孤立化」を訴える高齢者が増えています。コロナ禍で変化した生活のなかで，新たに必要とされるニーズの発見に努め，市民相互の助け合い活動で支援していきます。感染防止に留意しながら，引き続き利用会員の生活を支援していきます。

(単位：世帯)

区分	令和2年度	入会・退会	増減	令和元年度
高齢者	226(94.2%)	(入会) 90 (退会) 128	△38	264(93.0%)
障害者	6(2.5%)	(入会) 0 (退会) 6	△6	12(4.2%)

病弱者	6(2.5%)	(入会) 2 (退会) 0	2	4(1.4%)
ひとり親家庭等	2(0.8%)	(入会) 0 (退会) 2	△2	4(1.4%)
合 計	入会	—	92	—
	退会	—	136	—
	年度末世帯数	240(100.0%)	—	△44
	会員数	295人	—	△63
				358人

(イ) 協力会員の状況

令和2年度末の登録者数は266人で目標には届かず、担い手不足の状況が続いています。令和2年度は2度の緊急事態宣言の発令に伴い、協力会員の活動の意向を踏まえながら、ソーシャルワーカーが活動の休止や縮小の調整を行いました。そのなかで活動を中止する方も多くいました。

従前からの課題として、協力会員の居住地域や年齢層の分布に偏りがあります。助け合いが地域の隅々まで多世代にわたり展開できるよう、効果的な広報に努めていきます。また、地域の担い手として、大きな力として期待される元気な高齢者の方の参加促進に取り組んでいきます。

(令和2年度実績)

区 分	協力会員	月平均
入会者	20人	1.6人
退会者	37人	3.1人
令和2年3月末登録者数 (令和元年3月末)	266人 (283人)	—
月末登録者累計人数	3,106人	258.8人
活動者実数(各月合計)	1,443人	120.3人
ホームヘルプサービス	670人	55.8人
食事サービス	869人	72.4人
活動率(令和元年度活動率)	46.5%(57.4%)	

※ 活動者実数は、複数の活動に参加する会員もいるため、内訳の合計とは一致しない。

※ 活動率(%) = 活動者実数 ÷ 月末登録者累計人数

(ウ) ホームヘルプサービス

令和2年度は、延べ670人の協力会員が、延べ1,306世帯へ5,070時間のサービスを提供しました。令和元年度に比べ提供時間は37%減少しました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、室内で行う家事支援等のサービスは、ソーシャルワーカーがケースごとに協力会員、利用会員双方の意向確認を行い、ケアマネジャー等の関係機関や家族とコミュニケーションをとりながら休止、縮小の調整を図りました。サービス提供を見合わせる中でも、担当のソーシャルワーカーが利用会員に電話等で困りごとを聞き取り、代替サービスの紹介や他機関との連携に努め生活に支障が生じないように配慮しました。引き続き、会員双方のニーズに応えながら、地域の助け合い活動を広げていきます。

(対象者別利用時間数及び回数)

区 分		令和2年度		令和元年度	
		合 計	月平均	合 計	月平均
利用者数		1,306世帯	108.8世帯	1,839世帯	153.3世帯
利用回数		3,908回	325.7回	5,818回	484.8回
高 齢 者	総	4,665.0時間	388.8時間	7,379.5時間	615.0時間
	単身	2,272.0時間	—	3,048.0時間	—
	夫婦	1,011.5時間		1,526.5時間	
	同居	1,381.5時間		2,805.0時間	
障害者		149.5時間	12.5時間	391.5時間	32.6時間
病弱者		255.5時間	21.3時間	243.5時間	20.3時間
ひとり親家庭等		0時間	0時間	45.0時間	3.8時間
利用時間 計		5,070時間	422.6時間	8,059.0時間	671.6時間

(エ) 食事サービス

令和2年度は延べ869人の協力会員が38,595食を提供しました。令和2年度は新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い緊急事態宣言が2度発令され不要不急の外出が制限されました。食事サービス事業も協力会員の安全、健康を守るためサービスを縮小し、容器を使い捨てに変更しました。

会員配食は29,606食と、約15.6%減少しました。サービスの縮小、レストラン食の中止、デイサービスへの提供食数も減少したことが食数減少への大きな要因となっています。

事業を担う協力会員も月平均72.4人の活動となり、感染防止のため、活動者を減らし、縮小体制にしました。使い捨て容器に変更したことで調理場内の食器洗浄を行う洗浄の活動を休止しました。そのため活動者の実績は令和元年度を下回りました。引き続き、事業を通して元気高齢者の活躍の場の提供、安心安全で美味しい食事を提供していきます。

食事サービス利用状況

区 分	令和2年度		令和元年度	
	延べ合計	月平均	延べ合計	月平均
会員利用者数	1,665人	138.8人	1,908人	159.0人
利用総食数	38,595食	3,216.3食	48,225食	4,018.8食
会員配食	29,606食	2,467.2食	35,072食	2,922.7食
国領通所	5,858食	488.2食	7,320食	610.0食
ふちぼあん	2,174食	181.2食	2,162食	180.2食
その他	957食	79.8食	3,671食	305.9食

食事サービス週当たり利用日数／各年度3月利用者 (単位：世帯)

区 分		週1	週2	週3	週4	週5	週6	週7	合計
昼食	令和2年度	2	7	5	6	1	1	5	27
	令和元年度	2	8	7	2	4	2	6	31
夕食	令和2年度	12	18	14	9	5	5	14	77
	令和元年度	12	18	15	11	9	4	10	79
昼夕食	令和2年度	1	0	3	1	2	1	7	15
	令和元年度	1	0	3	0	4	2	13	23
合計	令和2年度	15	25	22	16	8	7	26	119
	令和元年度	15	26	25	13	17	8	29	133

食事サービス月当たり利用者区分／各年度3月利用者

区 分		令和2年度		令和元年度	
		世帯数	人 数	世帯数	人 数
高齢者	単 身	61世帯	61人	64世帯	64人
	夫 婦	24世帯	34人	31世帯	48人
	同 居	26世帯	29人	30世帯	37人
障害者		3世帯	3人	3世帯	3人
病弱者		3世帯	3人	2世帯	2人
ひとり親家庭等		2世帯	3人	3世帯	5人
合 計		119世帯	133人	133世帯	159人

※各区分の人数は世帯員等の内3月食事サービス利用者

(オ) 福祉施設へのサービス提供（食事サービス）

入間町デイサービスふちぼあん，調布市国領高齢者在宅サービスセンター及び子ども家庭支援センター「すこやか」の利用者へ継続的に食事サービスを提供しています。

(カ) 会員交流事業

公社会員（利用・協力・賛助）を対象に、会員相互の交流を図る目的で、ボランティアグループ「パワーズ」をお招きし、南京たますだれなどを鑑賞しました。15人の方が参加し、交流を深めることができました。

(キ) 会員慶弔

利用会員の誕生日に御自宅を訪問し、ミニブーケを届けました。逝去に際しては、弔電を送りました。

イ 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」

第2次中期 計画 目標・成果 指標	項目	目標値 令和2年度	実績
	利用件数	140件	88件
	登録ボランティア数	110人	120人
評価等	<p>○利用件数 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、利用件数が減っています。引き続き、活動できるボランティアの確保、事業の広報に努めていきます。</p> <p>○登録ボランティア数 目標値には達しましたが、いつでもどこでも活動できるボランティアを増やす取組が求められています。事業の趣旨、地域の助け合いを周知していきます。</p>		

ソーシャルワーカーが、ひとり暮らし高齢者などから、電球交換や荷物の上げ下ろし等のちょっとした困りごとを引き受け、登録ボランティアが解決しました。ソーシャルワーカーが関わることで、「ちょっとした困りごと」の解決と併せ、ひとり暮らし高齢者の孤立防止やソフトな見守り等の支援ができました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として利用者・ボランティアの双方の安全を確認するため、ソーシャルワーカーがボランティアに同行しながら実施しました。

本事業が、住民参加型で行われることで、地域社会のコミュニケーションの活性化の一助になると考えています。引き続き、困りごと解決のほか、見守りや市民の活躍の場の提供等、適切なコーディネート、情報提供に努めていきます。

事業名	実施内容	利用件数、参加者数等
生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」	30分程度でできる「ちょっとした」お手伝いをソーシャルワーカーが登録ボランティアをコーディネートして、困りごとを解決	相談件数：143件（うち新規：41件） 利用件数：88件（うち新規：26件） 登録ボランティア：120人 ※登録ボランティア説明会は、協力会員説明会と合同開催

ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業

	実施内容	目標値 令和2年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	受付窓口（電話，来所，訪問など）対応の充実	受付窓口担当の配置	受付窓口担当を配置
	休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援）	営業時間外の専門職による受付体制	営業時間外は専門職が携帯電話で受付
評価等	<p>○受付窓口（電話，来所，訪問など）対応の充実 時間帯により混雑する受付窓口を担当者を配置して，来所者の案内や利用者の誘導など適切に行いました。</p> <p>○休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援） 午後6時15分以降は携帯電話へ転送により受付（地域包括支援センター，居宅介護支援）と留守番電話による伝言受付（法人）により，適切に行いました。</p>		

高齢者を中心に，障害者，病弱者及びひとり親家庭等の総合相談の窓口として，在宅生活における介護などの様々な相談に応じました。また，地域の機関と連携しながら，公社の持つ情報やネットワークを駆使し，問題解決に向けた支援を行いました。365日対応することで，市民にいつでも相談できる安心感を与え，信頼を築くことができました。

医師及び弁護士による相談事業は，個人に限らず市内事業所の専門職等にも門戸を広げ，地域で福祉や介護サービスを担う人材へのサポートや資質向上に努めました。

事業名		令和2年度	令和元年度	備考
在宅福祉サービスに関する生活相談	電話	5,342件	9,300件	ソーシャルワーカー，看護師による相談
	来所	166件	854件	
	訪問	1,346件	3,299件	
	その他※	1,763件	2,137件	
	計	8,617件	15,590件	
医師による健康相談	内科	6件	5件	医師による相談
	精神科	6件	9件	
弁護士による法律相談		8件	7件	弁護士による相談
福祉用具などの相談，貸出，紹介		210件	234件	貸出件数
総合計		8,847件	15,845件	

※電話・来所・訪問の分類に入らない手段（事業利用時・メール等）での相談

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の緊急事態宣言が発令された、令和2年4・5月、令和3年1・2月は医師及び弁護士による相談事業は中止しました。

(2) 認知症施策の推進—認知症当事者とその家族への支援—

ア 認知症サポーター養成講座事業

第2次中期計画 目標・成果指標	事業名	目標値 令和2年度	実績
	認知症サポーター数（年度）	1,000人以上	554人
	認知症サポーターフォローアップ研修	2回	2回（58人）
評価等	<p>○認知症サポーター数（年度） 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で定員を制限し小規模開催にした結果、目標値に届きませんでした。令和2年度は、新たに第三小学校、緑ヶ丘小学校で本講座を実施しました。</p> <p>○認知症サポーターフォローアップ研修 本講座の復習、地域見守り訓練や認知症の人を介護する家族への理解を深める講演会などを通じて、認知症の問題を我が事としてとらえることができ、地域での見守りや認知症高齢者への声掛けなどにつながるきっかけになりました。</p>		

認知症になっても、安心して暮らし続けられるまちを目指して、地域の自治会や企業、学校など幅広い世代に向け、本講座を開催し、認知症の方やその家族の応援者となる認知症サポーターの養成に努めました。

併せて、認知症サポーターとなった方々に「活躍の場」を情報提供するために、「認知症サポーターの活躍の場リスト」を年1回最新の情報に更新・作成し、受講後のサポーターに配布しました。

事業名及び内容		回数	参加者数
認知症サポーター養成講座	地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施、キャラバンメイトの調整・派遣	13回	554人
認知症サポーターフォローアップ研修	認知症当事者、ケアラーの理解を深めるための講義・体験	2回	58人
認知症サポーターの活躍の場リスト	認知症サポーターの活躍の場の情報を更新・発行し市内全戸配布	1回	—

## イ 家族介護者支援事業

家族介護者にとって安心できる居場所の提供や、市内にある「家族介護者の居場所」等の情報提供、また、自宅で介護している家族に有効な介護技術の講習会を開催することで、家族介護者を支援しました。

介護している家族の方が一息つける居場所を提供するため、「だれでもカフェ」を月1回定期的に開催していましたが、令和2年4・5月、令和3年1・2月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言の発令により、開催を中止しました。家族介護者向けの介護技術講座は年1回開催しました。市内の家族介護者の居場所の情報を発信する「ケアラー支援マップ」は最新の情報に更新し、市内全戸に配布しました。

令和2年度はケアラー学習会を3回開催し、ケアラー支援の理解を深めました。参加者はケアラー団体、関係機関のほか、市民の参加も増えてきています。

	事業名	目標値 令和2年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	だれでもカフェ	220人	85人
	認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ	更新・発行	1回更新・発行
	家族介護者向け介護技術講座	15人（出張介護技術講座含む）	4人
評価等	<p>だれでもカフェは緊急事態宣言期間中（令和2年4・5月、令和3年1・2月）開催を中止したため目標値を大きく下回りました。また、再開後も利用を控える方が多く見受けられました。休止期間中、今までの参加者に電話連絡をし、心身状態の確認や日常生活の困りごとなどを聞き取り、つながりを保つことに努めました。密にならない環境等の整備や、参加者、ボランティアの感染防止策を徹底し、家族介護者が気軽に相談できるよう開催を継続していきます。認知症当事者や家族介護者等の必要とする方に情報が届くよう、より効果的な広報も課題です。</p> <p>家族介護者向け介護技術講座は参加者一人ひとりの困りごとに沿いながら実施できました。</p>		



事業名		実施回数	参加者数	備考
家族介護者 支援事業	だれでもカフェ (認知症カフェ)	月1回 (計8回) 令和2年4 月, 5月, 令和3年1 月, 2月中 止	参加者 延べ85人	○だれでもカフェこく りょう(毎月第4日曜 日)※10の筋力トレ ーニング, ハンドベ ル, 男性介護者のつ どい等 ○だれでもカフェぷち ぼあん (緊急事態宣言の発令に より令和2年度中止)
	調布市認知症高 齢者等を介護す るケアラー支援 マップの改訂	年1回	発行125,000部 (内123,000部を市 内全域にポスティ ング, 2,000部を 関係機関に配架 等)	令和2年7月20日広報紙ゆ うあい20号にて第9版を 掲載。ケアラーを支える グループ16件(新規2件), 相談窓口, 地域密着型サー ビス, 研修会等の情報を掲 載
	家族介護者向け 介護技術講座	年1回	4人	「知って安心, 自宅での介 護のコツ」 だれでもカフェこくりよ う開催時に実施 令和2年8月23日(日) 参加者4人
	ケアラーを支え るグループの学 習会	年3回	35人	①講義「伝える」から「伝 わる」コミュニケーションへ ②当事者事例紹介「看取り の介護体験を聴いてみ よう」 ③ケアラー団体事例紹介 「ケアラーの居場所を 考える」
	ホームヘルパー 出張派遣	年0件	相談件数 4 件 実施件数 0 件 訪問延件数0件	令和2年度は電話による相 談はありましたが, 感染防 止のため, 派遣を行いませ んでした。

### (3) フォーマルサービスの充実

#### ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

第2次中期計画 目標・成果指標	項目	目標値 令和2年度	実績
	延べ利用者数	9,380人	7,125人
	延べボランティア数	840人	296人
評価等	<p>○延べ利用者数 継続的に新規利用者を受入れていましたが、入院・入所や感染症対策で長期休みをされる利用者も多く、目標値を下回りました。</p> <p>○延べボランティア数 緊急事態宣言時中はボランティア活動の自粛を要請したため、目標値を大きく下回っています。</p>		

令和2年度は感染症対策を強化して継続的にサービス提供を行いました。

利用者の個々の状況については、職員間で情報共有し、関係機関とも連携を図りました。特に医療機関と密に連携を取り、看取りの利用者を受入れるなど、他事業所で受け入れることが難しい利用者や家族へ迅速・丁寧な対応ができました。

令和2年度の利用延べ人数は7,125人で、目標値より2,255人の不足となりました。新規利用者の受入は継続的に実施していましたが、新型コロナウイルス感染症対策や浴室改修工事のため新規利用者の受入が伸び悩み、目標値を下回りました。

総合事業通所型サービス（市基準）については、新型コロナウイルス感染症対策として密を避けるため、実施時間を短縮し2部制として、新たなサービス提供体制を構築しています。引き続き、市と連携して積極的な事業展開を進めていきます。

通所介護では、個別機能訓練加算Ⅰの取得から3年経過し、利用者の身体の状態に合わせて継続した身体機能の維持・改善や向上を図ることができました。令和2年度は新たに理学療法士を1人採用し、機能訓練指導員の人員体制の強化を図りました。令和3年度に向けて個別機能訓練のプログラムの見直し等を進めていきます。

認知症対応型通所介護では、認知症の行動・心理症状（BPSD）の改善が期待される「日本版BPSDケアプログラム」を導入し、より良い利用者のケアに繋がるよう現場での実践に取り組みました。引き続きケアプログラムを活用しながら、介護度や認知面の変化に合わせて利用者の個別ケア強化を進めていきます。

区分		令和2年度	令和元年度
通所介護	延べ人数	3,817人	4,378人
	1日平均	12.4人	14.1人
総合事業（国基準）	延べ人数	444人	1,072人
	1日平均	1.44人	3.46人
総合事業（市基準）	延べ人数	1,315人	1,287人

	1日平均	9.12人	9.12人
認知症対応型通所介護	延べ人数	1,549人	1,824人
	1日平均	5.02人	5.90人

(ア) 運営推進会議

情報の公開及び地域との連携・交流を確保し、サービスの質の確保・向上を図るため、利用者の家族や地域住民の代表者、サービスに知見を有する方に委員として参加していただきました。第2回運営推進会議は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言が発令されていたため、書面開催としました。

開催日
令和2年9月14日(月)
令和3年2月15日(月) (書面開催)

(イ) 家族会

感染症予防対策を講じ、参加者の協力を得て開催しました。具体的な相談内容に対して、介護の成功体験を交えた実践方法を介護者へ伝えたり、介護者同士が安心して気持ちを吐露できる場を提供したりすることができました。介護の共通の課題や認知症の症状からくる生活の大変さを共有することができました。令和2年度は9月と2月に開催予定でしたが2月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。9月の開催では7人の参加がありました。

開催日	参加者数
令和2年9月14日(月)	7人

(ウ) 地域福祉交流育成

令和2年度は、感染症予防に伴い、ボランティア活動の自粛を要請したため、目標値を大きく下回りました。

中学生職場体験や教員免許法における介護等体験事業についても、各実施団体より見合わせの通知があり、令和2年度の実績はありません。

今後は感染症予防を行なったうえで、受入を検討し、地域とのつながりに向け、発信していきます。

区 分		令和2年度	令和元年度
ボランティア受入	個人	延べ284人	延べ433人
	団体(人数)	9団体(12人)	43団体(250人)
ボランティア交流会	実施回数	0回	0回
	参加者数	延べ0人	延べ0人
職場体験受入	受入者数	0人	2人
	期間	0日間	5日間

イ 調布市地域包括支援センターゆうあい事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次 中期計 画 目標・ 成果指 標	介護予防関連事業 参加者数(出張説明 会, 介護教室)	140 人	延べ参加者144人 ●介護教室 (2日間) ・9月1日(火) 「知って活かそう暮らしの知識～バランスの良い食事で健康寿命を延ばそう～」 参加者17人 ・9月3日(木) 「知って活かそう暮らしの知識～知って得するおくすり講座～」参加者16人  ●出前講座 ○10の筋力トレーニング体験会 及び継続支援 ・7月29日(水) 調布ゆうあい福祉公社協力会 員(5人) ・9月1日(火) サロンドわきあいあい(8人) ・9月19日(土) マンション国領住民(10人) ・10月12日(月), 28日(水) ひだまりサロン代表者向け (13人) ・11月5日(木), 12日(木), 19日(木) マンション国領住民(20人) ○その他 ・9月19日(土) 「薬のお話(ミニ講座)」(10 人) ・10月2日(金) 「みまもりさん養成講座」(11 人) ・10月17日(土) 「口の中の健康を維持しよう」 (10人) ・10月27日(火)

			「金子の里活動再開支援」(14人) ・11月21日(土) 「終活について考えてみよう」(10人)
	地域ケア会議参加者延べ人数	90人	延べ参加者70人 ・第1回 8月3日(月) 「誰もが安心して住み続けられる見守りによる地域づくり」(37人) ・第2回 11月10日(火) 「かかりつけ医について考える」(21人) ・第3回 1月15日(金) ※緊急事態宣言の継続により、書面形式での開催となった 「消費者被害と対策について」(12人)
	みまもっとPR活動件数	300件	272件
評価等	<p>コロナ禍での参集、対面での開催については時期、環境を見ながら実施してきました。PR訪問以外の普及啓発、福祉啓蒙の目安となる目標値は、概ね達成となりました。出前講座は、コロナ禍で地域の見守り体制、医療との連携、自助でできる詐欺被害防止など、外との交流が少ない中で課題となる内容をテーマに設定し開催しました。第3回目の地域ケア会議においては、対面ではなく、書面にて開催を試みました。コロナ終息後も普及啓発、福祉啓蒙の方法については、地域の実情に合わせて、検討します。みまもっとPR活動については、行事の中止などで目標値は未達成ですが、効果的、効率的なネットワークづくりをテーマに、発信する媒体(みまもっと便り、フレイル予防、脳梗塞等の注意喚起ちらしなど)を工夫しPRを行う等の工夫をしました。</p>		

調布市内の高齢者人口の最多地区を担当し、地域のセーフティネット、また、地域包括ケアを支える拠点として、高齢者や障害を持つ方々が地域で安心して暮らせるように、数多くの相談を受けるとともに、医療や介護などの関係機関と密な連携を図りました。とりわけ、コロナ禍の引きこもり、不活発な状況に対して、地域の団体や自治会等へ地域活動の再開・継続に向けての支援を実施しました。また、対面では会議開催が難しいと捉えた学習会、会議についてはオンライン(ZOOMを活用した開催)、書面(アンケート形式)などの手段を積極的に取り入れ、事業継続ができるよう工夫しました。

地域ケア会議では、コロナ禍であるから出てくる課題に注視し、テーマを設定し

て開催しました。

(ア) 総合相談事業

区 分	令和2年度	令和元年度
相談件数	6,956件	7,411件
実態把握人数	845人	1,176人

(イ) 地域ネットワーク

区 分		実施日・回数等	参加者数
地域ケア会議	「誰もが安心して住み続けられる見守りによる地域づくり」	令和2年8月3日(月)	37人
	「かかりつけ医について考える」	令和2年11月10日(火)	21人
	「消費者被害と対応について」	令和3年1月15日(金) ※中止し、書面開催となる	12人
広報協力員研修，連絡調整会	施設見学 「しばさき彩ステーション」	令和2年9月16日(水)	7人
	PR訪問 市の世帯状況調査で訪問を希望した高齢者に広報協力員が訪問し，市の施策や事業等の紹介	新規訪問 1回 ※電話，書類送付	17世帯 22人
		継続訪問 1回 ※電話，書類送付	7世帯 11人
	民生児童委員と広報協力員連絡会	令和2年8月24日(月)	17人
認知症サポーター養成講座の開催	公社協力会員(市民)	令和2年6月30日(火)	7人
	市民	令和2年11月19日(木)	17人
認知症総合支援事業	認知症地域支援推進員がみまもっと担当と共に，地域の医療機関や児童館などに向けて，認知症ケアパスや認知症理解を促進するチラシを配布する等のPRを実施しました。総合相談の中でも認知症の相談は家族や近しい人からの相談が増えています。相談の中では認知症ケアパスの活用に努めました。また，地域への認知症対応の普及啓発(認知症サポーター養成講座)に努めました。		
在宅医療・介護連携推進事業	医療連携の推進については，ICTの活用推進，医療機関の特徴等についての適切な把握，相談窓口の活用について推進しました。ちょうふ医療相談室と連絡会を開催し，大学病院・地域のクリニッ		

	ク・訪問診療等各々の医療機関における医療連携の実情を共有しました。
--	-----------------------------------

(ウ) 介護支援

区 分		実施日・回数等	参加者数
介護教室	「知って活かそう暮らしの知識～バランスの良い食事で健康寿命を延ばそう」	令和2年9月1日(火)	17人
	「知って活かそう暮らしの知識～知って得するおくすり講座～」	令和2年9月3日(木)	16人
家族介護者の支援		ケアラーマップの配布等を通じて家族の方へ個別の支援を実施	

(エ) 権利擁護

区 分	令和2年度	令和元年度
虐待予防相談	131件	123件
成年後見制度の活用推進, 消費者被害の防止等の相談	132件	82件

(オ) ケアマネジメント支援

区 分	内 容		
ケアマネジャー支援	適正なケアプラン作成のための支援：65件		
地域連絡会ケアマネットの開催	「多世帯を見渡せるケアマネジメント力を身につけよう」	令和2年10月13日(火)	30人
	「ケアマネジャーが身につけておきたいターミナル期の連携」	令和3年3月17日(水)	38人
	事例検討会(勉強会)	①7月21日(火) ②9月15日(火) ③12月15日(火)	①16人 ②16人 ③17人

(カ) 介護予防マネジメント

高齢者等が現況の身体状況を維持し、安心して在宅生活の継続ができるように、自立支援を目指した介護予防支援及び介護予防マネジメントによる支援を行いました。

区 分	令和2年度	令和元年度
介護予防ケアプラン作成件数	2,197件	2,091件
介護予防ケアプラン委託件数	839件	1,033件

(キ) 見守りネットワーク事業

地域での事業協力者を拡大するため、地域団体への説明会や、地域住民への広報活動を行いました。また、公社のホームページや広報紙ゆうあい、みまもっと便りを活用し、地域住民への周知を図りました。

区 分	令和2年度	令和元年度
通報件数	60件	65件
PR件数	300件	235件

(ク) 包括的・継続的ケアマネジメント支援

区分	内容
包括的・継続的ケアマネジメント支援	高齢の方々が住み慣れた地域で自立して生活できるよう必要な援助、支援を行うために関係機関との連絡調整を実施しました。関係機関との連携においては、広報協力員や民生・児童委員との連絡会の実施のほか、地域の介護事業所等に地域ケア会議や関係者会議等への参加を促しました。

(ケ) 一般施策判定業務

区 分	令和2年度	令和元年度
判定数	284件	311件

(コ) 出前講座

区 分	実施日・回数等	参加者数
調布ゆうあい福祉公社協力会員 「10の筋力トレーニング体験会」	令和2年7月29日(水)	5人
サロンドわきあいあい 「10の筋力トレーニング体験会」	令和2年9月1日(火)	8人



マンション国領住民 「10の筋力トレーニング体験会」 「薬のお話（ミニ講座）」	令和2年9月19日（土）	10人
市民 「みまもりさん養成講座」	令和2年10月2日（金）	11人
ひだまりサロン代表者 「10の筋力トレーニング体験会」	①令和2年10月12日（月） ②令和2年10月28日（水）	①5人 ②8人
マンション国領住民 「口の中の健康を維持しよう」	令和2年10月17日（土）	10人
金子の里（ひだまりサロン） 「金子の里活動再開支援」	令和2年10月27日（火）	14人
マンション国領住民 「10の筋力トレーニング体験会及び継続支援」	①令和2年11月5日（木） ②令和2年11月12日（木） ③令和2年11月19日（木）	①9人 ②5人 ③6人
マンション国領住民 「終活について考えよう」	令和2年11月21日（土）	10人

(サ) 介護保険要介護認定調査

区 分	令和2年度	令和元年度
認定調査件数	12件	17件

ウ 軽度生活援助事業

第2次中期 計画 目標・成果 指標	項目	目標値 令和2年度	実績
	延べ利用時間数	206 時間	206 時間
	延べ利用者数	36 人	24 人
評価	介護保険制度だけでは対応できないケースに対する支援体制の維持は必要であるため継続していきます。		

介護保険サービスにおける支給限度額内のサービスだけでは支援体制を構築できないケースや、本人の認知機能症状で介護保険サービスの受入ができないケースに介入し、継続的な支援を実施しました。令和2年度の延べ利用者は目標に届かなかったものの、サービス提供延べ時間数はほぼ目標の数値となりました。

区 分		利用者延べ数	サービス提供 延べ時間数	サービス提供 延べ回数
見守り事業	令和2年度	24人	206時間	206回
	令和元年度	28人	229時間	189回

(4) 介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進

ア 訪問介護事業，障害者訪問介護事業

第2次中期計画 目標・成果指標	項目	目標値 令和2年度	実績
	延べ利用時間数		15,100時間
介護職カフェ（介護技術勉強会） 開催回数（再掲）		4回以上	0回
評価等	<p>○延べ利用時間数 退職者の補充ができず，目標値には至らない状況となりました 今後，新たな雇用形態の創出を行い，職員の確保を積極的に行っていきます。</p> <p>○介護職カフェ 感染防止のため中止としました。</p>		

(ア) 訪問介護事業

安定した事業運営を目指し，月次での収支状況の確認を行い，法人内で情報共有するとともに，日常業務の見直しを行い効率化を図りました。また，福祉人材の育成と地域への還元の一助として調布市福祉人材育成センターで実施されている介護職員初任者研修，重度訪問介護員研修の講師を派遣しました。令和2年度は感染防止のため高齢者家事援助ヘルパー養成研修，介護職カフェは開催中止となりました。

区分	利 用 者 数（上：延べ人数，下：%）								訪問時間数 訪問回数
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	
令和2年度	110	193	216	209	119	53	117	1,017	8,399時間
	10.8	19.0	21.2	20.6	11.7	5.2	11.5	100.0	10,953回
令和元年度	114	248	202	212	89	92	128	1,085	9,938時間
	10.5	22.9	18.6	19.5	8.2	8.5	11.8	100.0	12,906回

(イ) 障害者訪問介護事業

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づき，居宅介護・重度訪問介護の対象者が，地域で安心して自立した在宅生活を継続できるように，サービス提供に努めました。

区 分	利用者数	サービス提供時間数	サービス提供回数
令和2年度	303人	3,005時間	2,159回
令和元年度	331人	3,132時間	2,315回

(ウ) 定期研修

区 分	回数	参加者数
定期研修	年10回	延べ149人

(エ) 介護職カフェ（介護技術勉強会）

区 分	実施日	参加者数
介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲）	感染防止のため中止	—

イ 居宅介護支援事業，介護保険要介護認定調査事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次中期 計画 目標・成 果指標	ケアプラン作成数	1,490件	1,451件 ① 介護 延べ1403件 ② 予防 延べ48件
	福祉専門職スキル アップ研修（再掲）	2回以上	新型コロナウイルス感染症 拡大に伴い中止しました。
評価等	○ケアプラン作成数 事業所の新型コロナウイルス感染症対策や介護サービス事業所での新型コロナウイルス感染症発生に伴い，サービス調整が多くなり，新規契約の対応が積極的に行えず，目標値を達成できませんでした。		

(ア) 居宅介護支援事業

利用者が，住み慣れた地域でその方の望む生活を実現し，可能な限り継続ができるように，適切なアセスメントと課題分析を行うとともに，公的制度や地域の社会資源を活用したケアマネジメントを行いました。今後の経営安定化を目指し，令和2年度に事業所職員1人を常勤化し，主任介護支援専門員の育成を図りました。

（上：延べ利用者数，下：％）

年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和2年度	22	26	396	537	237	118	115	1,451
	1.5	1.8	27.3	37.0	16.3	8.1	7.9	100.0

令和元年度	35	30	496	437	241	133	92	1,464
	2.4	2.0	33.9	29.8	16.5	9.1	6.3	100.0

(イ) 介護保険要介護認定調査事業

調布市の介護保険制度運営のため、介護保険法に基づく要介護認定調査を行いました。

区 分	令和2年度	令和元年度
認定調査件数	3件	29件

(ウ) 福祉専門職スキルアップ研修

区 分	実施日・回数等	参加者数
① 介護技術勉強会	中止	—
② ケアマネカフェ	中止	—
③ ちょうふ高齢者応援大会	—	—

ウ デイサービスふちぼあん事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	延べ利用者数	2,670人 (稼働率86.5%)	2,148人 (稼働率69.6%)
	地域開放支援事業	23回	0回
	家族会開催回数	2回	1回
評価等	<p>年度当初より新型コロナウイルス感染症の影響を受け、通所利用への不安や自粛、職員や施設も感染防止対策に迫られました。担当者会議も書面での照会が中心で、接触を控えるような状況でした。感染症への対策も進めるなかで、定員に近い利用者を受け入れることへの不安（密接、密集）もあり、加えて冬季の利用者の体調不良による入院や施設入所が相次いだこともあり、目標値には到達しない実績となりました。</p>		

新型コロナウイルス感染症が流行するなか、通所介護事業所として事業をいかに継続していくかを検討し続けた一年となりました。関係各所からは感染症についての情報提供のみならず、感染対策物資（マスクや消毒液など）のバックアップもあり、事業継続ができました。利用者や御家族の御協力（検温、マスク、体調確認など）を得られたことも事業継続できた大きな要因でした。職員も家族を含めた体調管理やPCR検査にも積極的に協力するなど、感染源にならない様に努めました。利用者の体調不良による入院や施設入所などで稼働率は安定していませんが、今後も認知症になっても安心して地域生活ができるよう支援していきます。その他、感染症予防に伴い、施設内に集まるイベントやボランティアの協力、家族会や運営推進委員会なども制約を受ける状況でした。認知症に伴う周辺症状（BPSD）への

アプローチ（DEMBASE）についても実践を続けながら、専門的なケアを目指して取り組んでいきます。

(ア) デイサービスぷちぽあん事業

区 分		令和2年度	令和元年度
認知症対応型通所介護	延べ人数	2,148人	2,162人
	1日平均	8.3人	8.4人
介護予防認知症対応型通所介護	延べ人数	0人	0人
	1日平均	0人	0人

(イ) 運営推進会議

情報の公開及び地域との連携・交流を確保し、サービスの質の確保・向上を図るため、利用者の家族や地域住民の代表者、サービスに知見を有する方に委員として参加いただきました。感染症予防に伴い、2回目は書面開催としました。

開催日
令和2年6月15日(月)
令和3年1月28日(木) (書面開催)

(ウ) ぷちぽあん事業運営協議会

感染症予防のため、ぷちぽあん祭りは中止し、それに伴い運営協議会についても開催には至りませんでした。ぷちぽあん祭りについては、形態も含めて開催の可否を検討し、また、運営協議会についても会の在り方を検討し、運営推進会議への統合を提案（協議）していきます。

(エ) 家族会

令和元年度実施した「家族会アンケート」での要望も受け、令和2年度は御家族の参加者状況も確認しながらの開催となりました（密接、密集回避）。第1回の家族会ではこれまで参加されなかった方も来られ、有意義な会となりました。

年2回を予定していましたが、緊急事態宣言が延長されたこと等も考慮し、2回目の家族会は中止としました。

開催日	参加者数
令和2年10月19日(月)	3人

(オ) 地域開放支援事業

地域開放支援事業では、ひだまりサロンや自治会への施設貸出を予定しました。

区 分		令和2年度	令和元年度
ボランティア受入	活動者数	延べ212人	延べ324人
ひだまりサロン実施支援	実施回数	0回	9回

	参加者数	0人	延べ92人
地域交流会支援	実施回数	0回	0回
	参加者数	0人	0人
施設貸出	貸出回数	0回	7回
	参加者数	0人	延べ46人
施設開放	貸出回数	0回	16回
	参加者数	0人	延べ138人

(5) 公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進

ア 普及啓発事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	福祉講演会の参加者率	会場定員 90%以上	感染防止のため中止
	協力会員・登録ボランティア説明会 延べ参加者数	60人	36人
	出張説明会	12回	6回
評価等	<p>○福祉講演会 新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令により、開催中止としました。</p> <p>○協力会員・登録ボランティア説明会延べ参加人数 各地域に出張等し、開催しましたが、延べ参加者数は達成できませんでした。</p> <p>○出張説明会 多摩川住宅自治会や西部公民館のシニア講座に出張しましたが、新型コロナウイルスの感染症拡大により、目標値は達成できませんでした。</p>		

協力会員や登録ボランティアを拡大するため、市内の地域福祉センターに出張して協力会員募集説明会を開催し、普及啓発に努めました。また、初めての試みとして、郵便局封筒に協力会員募集案内を掲載し、担い手の募集に努めました。

住民参加型サービスの活用促進のため、広報紙「ゆうあい」では住民参加型サービスの特集を組んで全戸配布し、ひだまりサロン、自治会、公民館等へは出張して住民参加型事業の普及啓発に努めました。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染症拡大による事業規模縮小に伴い、目標値を達成できないものが多くありました。そのため、非対面でも市民・会員の方々と繋がるためのフェイスブックを開設、ZOOMを活用して協力会員サロンやケアラー学習会を開催するなど新しい取組も行いました。

事業名		実施回数	参加者数	備考
福祉講演会	市民相互の支え合いとあたたかい地域づくりを目指し地域福祉・ボランティア活動の啓発	年1回	中止	講演会テーマ「家族介護，独りで悩まないで～孤立しない地域を作るために～」 感染防止のため中止
広報	機関紙「ゆうあいほっとらいん」	年6回	—	2,500部/回
	広報紙「ゆうあい」	年2回	—	13万部/回 (内12万8,000部を市内全域にポスティング，2,000部を関係機関に配架等)
	ホームページ	随時更新	—	イベント情報を随時更新
出張説明会		年6回	51人	ひだまりサロン，自治会，公民館等
協力会員・登録ボランティア説明会		年26回	延べ36人	「ちょこっとさん」登録ボランティア説明会と共催
生きがい介護予防講座	男性のための料理講座	年1回	延べ33人	5日コース
	フォークダンス講座	年1回	中止	4日コース
介護予防社会参加事業	「だいこんの会」	月1回	—	生きがい介護予防講座修了者の自主グループ
	ゆうあいフォークダンス友の会「フレンズ」「すみれ」	各月3回	—	
調布市食事サービス連絡会	市内配食事業者との連絡会において，情報・課題の共有，課題解決への検討	年1回	6事業者より回答	令和2年度はアンケート形式で実施。「コロナ禍での配食サービス」について

家族介護者支援事業（再掲）	だれでもカフェ（認知症カフェ）	月1回 （計8回） 令和2年4月， 5月，令和3年 1月，2月中止	参加者 延べ85人	○だれでもカフェこくりょう（毎月第4日曜日） ※10の筋力トレーニング，ハンドベル，男性介護者のつどい等 ○だれでもカフェぷちぼあん （緊急事態宣言の発令により今年度中止）
	調布市認知症高齢者等を介護するケアラー支援マップの改訂 ※広報に再掲	年1回	発行12万5,000部（内12万3,000部を市内全域にポスティング，2,000部を関係機関に配架等）	令和2年7月20日広報紙ゆうあい19号にて第9版を掲載。ケアラーの集い場16件（新規2件），相談窓口，地域密着型サービス，研修会等の情報を掲載
	家族介護者向け介護技術講座	年1回	4人	「知って安心，自宅での介護のコツ」 だれでもカフェこくりょう開催時実施 令和2年8月23日（日）
認知症サポーター養成講座（再掲）	認知症サポーター養成講座	13回	554人	地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施，キャラバンメイトの調整・派遣
	認知症サポーターフォローアップ研修	2回	58人	地域見守り訓練の実施，認知症の人を介護する家族への理解を深める講演会
	認知症サポーターの活躍の場リスト	1回	—	認知症サポーター活躍の場の情報を更新・発行し市内全戸配布



## イ 人材育成事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む）	250人	140人
	ゆうあい福祉セミナーの参加人数	10人	感染症拡大防止のため中止
	介護職カフェ（介護技術勉強会）、及び福祉専門職スキルアップ研修の延べ参加人数（再掲）	90人	感染症拡大防止のため中止
評価等	<p>○協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む） 参加人数が減少傾向にありました。様々なニーズに応じることができるよう各種研修の充実に努めていきます。</p> <p>○ゆうあい福祉セミナーの参加人数 2月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を中止しました。</p> <p>○介護職カフェ 感染症予防に伴い中止としました。</p>		

公社の理念である「市民相互の助け合い」と「自立支援のための質の高いサービスの提供を通じてあたたかい地域づくり」を推進するために、介護の担い手や協力会員及びボランティアの育成、並びに専門資格の取得を目指す実習生の受入や各種講座・研修等の開催など、様々な「学びの場」を提供し、介護や地域福祉の担い手となる人材の育成に努めました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年どおりに実習機関として外部から実習生を受入れられませんでした。住民参加型在宅福祉サービス事業と地域包括支援センターの事業を併せ持つ公社は、介護保険事業について総合的に学べる法人として、医療、福祉及び教育など裾野の広い分野における育成・実習機関となっています。また、地域においては、各種の講習会・勉強会等に、公社の職員を講師として派遣するなど福祉サービス向上に貢献しています。

事業名及び内容	実施日又は回数	参加者数	
ゆうあい福祉セミナー	親子で作る！「飾り巻き寿司」～楽しく始めよう親子で食育～	感染防止のため中止	—
実習生の受入	大学、専門学校等から社会福祉援助技術や教員免許取得等の実習	53日（延べ日数）	11人
福祉専門職講師派遣	地域の福祉人材育成を支援するため公社職員	11回	—

		を派遣			
協力会員研修・登録ボランティア研修	定例会	協力会員の交流を深めるとともに地域づくりの一員としての役割を学ぶ	年4回	延べ38人	
	基礎研修	協力会員登録時に活動のための基礎を学ぶ	年21回	延べ21人	
	食事サービス	新人研修	調理実地研修	8日コース	1人
			配達実地研修	4日コース	6人
		スキルアップ研修	食品衛生講習	1回	28人
			調理実習	感染防止のため中止	—
			安全運転講習	1回	42人
ホームヘルプサービス	スキルアップ研修	車いすの介助方法の講習	1回	5人	
介護予防サロン	高齢者でも参加できる社会参加の機会提供、介護予防・地域づくりに向けた支援	グリーンクラブ	月2回	延べ43人	
		ゆうあいネット倶楽部	週1回	延べ82人	
		おなかまクラブ	月1回	延べ18人	
認知症サポーター養成講座事業（再掲）	認知症サポーター養成講座		13回	554人	
	認知症サポーターフォローアップ研修		2回	58人	
	認知症サポーターの活躍の場リスト		1回	更新・発行	
介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲）	—		感染防止のため中止	—	

福祉専門職スキル アップ研修（再掲）	介護技術勉強会	感染防止のため中止	—
	ケアマネカフェ	感染防止のため中止	—

#### ウ 調査研究開発事業

	項目	目標値 令和2年度	実績
第2次中期 計画 目標・成果 指標	実践活動報告数	6回	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い報告機会がありませんでした。 ※公社で実施しているフレイル予防の取組と体力測定の結果をホームページで公開の予定をしています。
	調査実施数（内部調査，実証研究調査，新規・改善事業調査）	2回	2回 （フレイル予防のアンケート調査・職員対象に事業提案募集）
評価等	実践活動報告数は目標値に達しませんでした。		

フレイル予防のアンケート調査については、公社で総合事業通所型市基準サービス（市基準）を開始し、継続的にデータの蓄積ができています。外部のデータ分析機関を活用し、その集計をすることができました。これについては、ホームページでも公開を予定しています。令和3年度もこれを活用し、分析方法を工夫して公表を検討していきます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実践活動報告の場はありませんでした。

取組	内容
実践活動報告	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い活動報告の場はありませんでした。 フレイル予防アンケート調査結果については、ホームページで公表を予定しています。
関係協議会等への参加	公社事業の実践活動を生かし、調布市内・外の医療・福祉・介護に関する32協議会等に参画しました。